

ンド全ク無毛(極メテ稀ニ少數ノ毛アリ)、葉尖ハ一般的ニハばくちのき程有尾狀ニナラズ、葉基モ一般的ニハ鈍角デ中肋ト側脈トノ成ス角ハ約 50 度(ばくちのきハ約 40 度)デ葉質ハ甚ダ薄イ點ナドデ區別出來ル。然シばくちのきト一致スル點ハ葉裏ノ表皮組織ノ構造及ビ葉肉及脈内ニ簇晶ヲ認メ得ル點デアアル。然シテ此標本ハ前陳セン通り金平氏ノ採品デ名箋ニ *Prunus Kanehirai* HAYATA ナル早田博士ノ手記ノアルモノデアアルカラ、同博士ガ臺灣植物圖譜 V 編 p. 35-6 ニ *Prunus macrophylla* S. et Z. ばくちのきトシテ記相サレタ唯一ノ材料デアアルコトハ、產地、採集者、採集年月日ガ一致スル點デ判ル。故ニ余ハ *Prunus Kanehirai* HAYATA ナル裸名ト此臺灣植物圖譜中ノ記相文トヲ結びツケ之ヲ新種ト考定シ、之ニたいわんばくちのきナル新和名ヲ與ヘントスルモノデアアル。

(4) マタ支那産ノモノデ *P. macrophylla* ニ擬セラレテ居ルモノハ(例ヘバ *Plantæ Wilsoniæ* I. p. 71 & 74, III 425) 果シテドンナモノカ判ラナイガ、余ガ見タ唯一枚ノ標本(Y. Y. Ho 氏ガ Chekiang 即チ浙江デ 23 X 1932 ニ採集)デハ(Fig. 9) 日本ノモノトハ別ノモノハ様ニ思ハレル、尙葉ノ大形ナル點ハ *Prunus oxycarpum* MAX. (*Pygerum oxycarpa*, *Laurocerasus macrophylla* v. *oxycarpa* SCHNEIDER) トデモ言フモノデハナカラウカト思フガ其點自信ハナイ。

終リニ標本、文獻ノ閱覽ヲ許容サレ、且ツ助言ヲ與ヘラレタ中井東大教授並ニ撮影ノ勞ヲ執ラレタ額田 年氏ニ謝意ヲ表ス。

## まるばのほろし及其近似種ノ學名考

奥 山 春 季

S. OKUYAMA: Notes on some Japanese Solanums.

まるばのほろし一群ノ學名ガ非常ニヤ、コシクナツテ居ルノデ其使用ニ際シ困惑シテ居ル人モアルコトト思ハレルカラ此處ニ私ノ知り得タ経緯ヲ記シテ見ル。参考ニナレバ幸甚。

MAXIMOWICZ 氏以來我邦ノまるばのほろしノ果實ノ圓形ノモノハ *Solanum Dulcamara* var. *ovatum* 橢圓形ノモノハ *S. Dulcamara* var. *macrocarpum* ニ當テテ來タガ和名まるばのほろしハ此ノ兩者ヲ混同シテ使用シテ居タ様ニ思ハレル。即チ FRANCHET & SAVATIER 氏ノ *Enumeratio Plantarum Japonica-*

rum Vol. I. 339 頁ノ *S. Dulcamara* var. *ovatum* = 『草木圖説』ノ和名まるばのひよどりじょうご (Marou bano shiodori dzyogo ト記ス)——此ノ和名ハ新訂版 (1875年) ノ折まるばのほろしト訂正サレ 1907 年ノ増訂版ニモ此ノ和名ヲ用フ——ヲ當テテ居ル。所ガ『草木圖説』ハ圓形ノ果實ノモノヲ記シテオルカラ増訂版 = *S. Dulcamara* var. *macrocarpum* MAXIM. ノ學名ヲ當テテ居ルノハヨクナイ事ニナル。然シ本文中 = 「又實差長キモノアリ」ト記スノガ其ノ圖中ノ果實二個ヲツケタモノヲ指スモノデ或ハコレコソ var. *macrocarpum* = 當ルモノデアラウ。1922 年 KUDO 博士ハ『北海道藥用植物圖彙』中 = *S. macrocarpum* KUDO ヲ圖説シまるばのほろしノ和名ヲ當テテアルノガ此ノ橢圓形ノ果實ノモノデ、1932 年 KOIDZUMI 博士ハヤハリ *S. macrocarpum* ノ組合セヲツクリ記載サレ、其折おほまるばのほろしノ和名ヲ記シテ居ルガ此ノ學名ハ homonym デアルカラ使フ事が出来ナイノデ最近 *S. megacarpum* KOIDZUMI ト改名サレタ。おほまるばのほろしノ和名ニツイテ私ハ武州浮間原ノ採集標本 = 牧野先生ガ *S. macrocarpum* KUDO トおほまるばのほろしノ和名ヲ手記シテ (1928 年ノ冬デアツタと思フ) 下サツタ標本ヲ持ツテ居ル (寫眞参照、下段ノ手記及果實ノ圓形・橢圓形ノ圖モ然リ) ガ和名ノ命名者ヲ問題ニスル様ナ場合參考ニナリハシマイカ。



*Solanum megacarpum* KOIDZUMI.

おほまるばのほろし (東京浮間原産)

又『草木圖説』ノ「一種葉ニ缺刻アツテ菊葉ノ如キアリ」トアルノガ 1910 年 MAKINO 博士ガ *S. Dulcamara* var. *heterophyllum* MAKINO やまほろしト新稱シタモノニ當ルト思ハレル。後、種ニ引上ゲラレタガ此ノ組合セガ三度文獻上

ニ正式ニ發表サレタ事ハ注意スベキ事デ、即チ 1923 年 NAKAI 博士ハ *S. japonense* NAKAI ノ組合セヲ『朝鮮森林植物編』中ニ記サレタガ 1926 年ニハ MAKINO 博士ガ *S. nipponense* MAKINO ヲ發表シ 1930 年ニハ NAKAI 博士再ビ *S. gracilescens* NAKAI ナル名ヲ發表サレタ。所ガ此ノ *S. gracilescens* ハ NAKAI 博士ノ正式發表前ニ MAKINO 博士ニヨツテ まるばのほろしニ用ヒラレタ事モ注意スベキデアル。然シ學名ハ同一ダガ MAKINO 博士ガ NAKAI 博士ノ *S. gracilescens* ダトシテ用ヒラレタモノガ異ナルモノヲ指スワケデアルガ斯ル場合 *S. gracilescens* NAKAI ex MAKINO トシテ使フ分ニハ何等差支ヘナイノデアアルマイカ。まるばのほろしニ此ノ *S. gracilescens* ガ使ヘナイトシテモやまほろしノ學名トシテ用フル事ガ出來ナイカラ、サウスレバ以上ノ様ナ經緯トハ無關係ニ後ニ發表サレタ *S. Maximowiczii* KOIDZUMI ヲ用ヒナケレバナラナイワケデアル。(其ノ詳細ハ學名ノ項参照サレタシ)

尙まるばのほろし一群ノ識別點ヲ要約スレバ次ノ様ニナルモノト思ハレル。

	(漿果)	(花色)	(葉)
やまほろし	球形	白色	下者三裂
まるばのほろし	球形	紫色	無分裂
おほまるばのほろし	橢圓形	紫色	無分裂
たかをほろし	橢圓形	紫色	分裂

終ニ文獻ニツキ御注意下サレタ久内清孝氏ニ感謝シマス。

***Solanum japonense*** NAKAI Fl. Sylv. Kor. par. XIV. 58 (1923)

Syn. *S. Dulcamara* var. *heterophyllum* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XXIV. p. 19 (1910); *S. heterophyllum* NAKAI ex MORI Enum. Pl. Cor. 310 (1922) non LAMARCK; *S. nipponense* MAKINO in Jour. Jap. Bot. III. 20 (1926); *S. gracilescens* (non NAKAI 1926) NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XLIV. p. 534 (1930).

やまほろし

***Solanum gracilescens*** NAKAI ex MAKINO Nipp. Shok. DzUK. p. 185 fig. 359 (ed. Ap. 1926) et in Jour. Jap. Bot. III. p. 38 (1927) in nota.

Syn. *S. Dulcamara* var. *ovatum* (non DUNAL) FR. & SAV. Enum. Pl. Jap. I. 339 (1875); *S. Maximowiczii* KOIDZUMI in MAYEBARA Fl. Aust. Hig. p. 51, 85 (1931) et in Act. Phyt. Geobot. I. p. 24 (1932).

まるばのほろし

***Solanum megacarpum*** KOIDZUMI in Act. Phyt. Geobot. IV. p. 159 (1935).  
Syn. *S. Dulcamara* var. *macrocarpum* MAXIMOWICZ; *S. nipponense* var.

*macrocarpum* MAKINO et NEMOTO Fl. Jap. ed. 2 p. 1050 (1931); *S. macrocarpum* KUDO in KUDO & SUSAKI Hokk. Yak. Shok. Dzui t. 84 (1922) et Rep. Veg. North. Sagh. p. 210 (1924); *S. macrocarpum* KOIDZ. l. c. I. p. 23 (1932).

おほまるばのほろし

## 蕈菌類ノ畸形ニ就テ (其一)

川 村 清 一

S. KAWAMURA: Notes on some anomalous Fungi (I)

### (1) まつおふじ茸ノ畸形

茸類ハ外形ガ草木類ノ様ニ複雑デナイカラ形態ガ普通ノ状態カラ變ツテ生エテキテモ草本類ノ畸形品ノ如ク人目ヲ惹カナイ場合ガ多イ、又畸形ノ程度ノ烈シイモノハ、之ヲ或菌ノ畸形品ト氣附カズ、別種ノ菌デ常ニソナナ形態デアル種類ト思ツテ、特ニ菌ヲ研究スル人以外ニハ、輕々ニ看過セラレル場合ガ多イカラ、茸類ノ畸形品ハ一般ニハヨク知ラレテ居ナイ様デアル。

櫛菌科茸類デ最モ著シイ畸形ヲ現ハス事ノアルモノハ、まつおふじ (*Lentinus lepideus* Fr.) デアル。拙著「日本菌類圖説」第九九圖ニ揭示シテキルモノハ、本菌ノ畸形品中デモ形ノ變化ノ烈シイ方デハナク、莖ガ著シク伸び曲ツテ一見まつおふじノ普通品トハ初學者ニモ疑ハレル程度デ、夫レガまつおふじノ變形品デアルコトヲ櫛ノ特徴ニ依ツテ判ル様ニ、蓋ノアル標本ヲ選ンダノデアル。然シ之レヲ同書ノ第100圖ニ掲ゲテキルモノト比較スルト、素ヨリ甚シイ外形ノ相違ノアルモノデアル。殊ニ畸形ト云ツテモまつおふじノモノハ、一寸形容ノ仕難イ位變形シテキルモノガアルカラ、特ニ英語デ Monstrous form (怪異形)ト稱シテキル位デアル。此ノまつおふじノ怪異形標品ハ今迄ニ澤山得タガ、本年五月岩手縣岩泉町ノ佐藤榮一氏カラ送ラレタ標本ノ如キハ其最モ顯著ナルモノデアル(第1圖參照)。英國ノ菌類圖譜 COOKE, Illustrations of British fungi VII, fig. 1141 ニ示シテキルモノモ、本菌ノ怪異形トシテハ顯著ナルモノデアルガ、私ノ標本ハ尙一層著甚ナモノデアルコトハ、爰ニ掲ゲタ寫眞ニ示ス通りデアル。高サハ 40 糎デ太イ細イ多數ノ枝ニ分歧シテ樹木ノ枯枝ノ如ク又或部分ハ馴鹿ノ角ノ様ニ或ハ獸類ノ脊骨ノ様ナ形シテ稍扁平ニナツテキル所